

紙・パルプ物流(家庭紙分野)の現状と課題 及び課題解決の方向性等について

論点1：手積み手卸しの解消

【現状・課題】

- 家庭紙製品は嵩張るため、他の日用品とは別に、単独で流通している。
 - 家庭紙製品は単価が安いいため、製紙メーカーから卸業者の倉庫までの幹線輸送の際は、最大限積載効率を上げるため、手積みによりトラックの荷台を満載にして出荷するが、手積み作業には1時間半から2時間程度を要す。
 - 手卸し作業にも同様に1時間半から2時間程度かかるため、バースを長時間占拠することになる
 - 家庭紙大手4社（王子ネピア、日本製紙クレシア、大王製紙、カミ商事）では、2018年6月にパレットの共同利用についての研究会を立ち上げ、レンタルパレット会社（ユーピーアール）と連携して、トラックへの積載率を現状で最大限向上させることを可能とする家庭紙専用のパレットを開発した。
 - パレットの導入により、荷揚げ・荷卸し作業に要する時間は、それぞれ15分程度にまで短縮できるようになり、荷待ち時間の削減にも寄与。
- ⇒ パレット化で荷揚げ・荷卸し作業に要する時間や労力を大幅に短縮・軽減できるようになった一方で、卸業者側ではそのままの荷姿では搬入できず、パレットの積み替えを行うなど、専用パレットのメリットを享受できていない面もある。

【課題解決の方向性】

- 製品の大きさ、パッケージ方法、ケースの積み付け方等を工夫することで、高積載率を維持しつつ、受入側（卸業者）の課題（庫内設備の不適合、危険を伴う庫内作業の発生等）も解決することにより、パレットの導入を促進できるのではないか。

【今年度の実施事項：パレット化の導入促進に向けた実証・課題整理】

- メーカー・卸業者の双方の意見も踏まえ、パレットを活用した最適な荷姿のあり方と、それぞれの場合の効果（積載効率、コスト、庫内の作業量等）を実証的に検証するほか、専用パレットの更なる普及に向けた課題整理や、専用パレット導入に向けたメーカー側・卸業者側それぞれに必要な対応等について検討・整理等を行う。

(参考)家庭紙共同利用(開発)パレットについて

【現状】

- トラックを満載にして輸送するために、手積み・手卸し作業を行っており、各作業に約120分かかっている。
- トラックドライバーの拘束時間を遵守するため、上記作業を拒否するトラック事業者も現れている。
- 物流センターや倉庫等のバースを長時間占拠することになるため、他の荷物を納品するトラックドライバーの荷待ち時間の原因にもなっている。



【大手家庭紙メーカーの取組】

- 大手家庭紙メーカー4社においては、パレット利用による積載率の低下を受容しつつ、可能な限り高積載率を維持してパレット化を実現し、かつ各メーカーが安価にパレットを導入できるようにするため、家庭紙専用の統一パレットを開発・導入
- 納品先からパレットを回収する専用スキームを構築するため、レンタルパレット会社と業務提携し、パレットの製作・管理・回収を委託するスキームを採用



【導入効果】

- **トラック積込み・荷卸し時間の短縮**
(約120分から約15分に大幅に短縮)
- 他のトラックドライバーの荷待ち時間の改善
- 家庭紙輸送を行うトラックや、女性等も含めたドライバーの確保



論点2: 荷待ち時間の削減

【現状・課題】

- 午前中の納品が多いため、同じ時間帯にトラックが集中する。
 - 帰り荷がある場合、午前に納品、午後に帰り荷の受け取りとなっていることが多い。
 - 倉庫においては、出庫を優先し、その後に入庫となることが多いため、入庫のトラックに待機が発生している。
- ⇒ 限られた荷役スペースに多くのトラックが集中することにより、荷待ち時間が発生している。
- ⇒ 少しでも早く荷卸ししたいドライバーが、指定時間よりも早く荷卸し場所付近で待機する状態が荷待ち時間の長時間化につながっている。

【課題解決の方向性】

- 例えば、荷役スペースの予約受付システムの導入により、指定時間よりも早く来て待機するという現状を解決するなど、荷待ち時間の削減を図ることができるのではないか。
- トラック事業者の事情も考慮した入庫ルールとすることが望ましいのではないか。

【今年度の実施事項：**予約受付システムの導入促進** 等】

- 荷役スペースの予約受付システムを実際に導入している事例のヒアリングや、実用化されている同種のシステム・サービス等の試行等を行い、導入に当たってのノウハウや課題等について検討・整理する。
- 予約受付システムその他、例えば、定期的に納品するトラックについては一定期間同じ時間帯に入庫できるようにするなど、トラック事業者の事情も考慮して入庫ルールを定めている事例をヒアリング等により調査する。

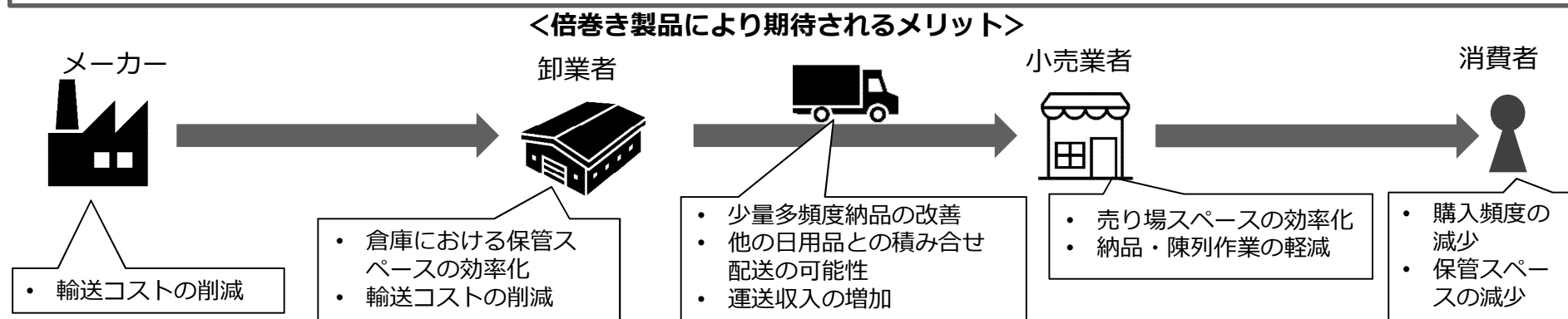
論点3:少量多頻度納品の効率化

【現状・課題】

- 小売店舗は狭隘な立地にあることも多いことから、小型トラックでの配送となっている。
 - 家庭紙は嵩張ることから、狭隘な小売店舗では在庫を置けないため、ほぼ毎日、必要数量を配送している。
 - 家庭紙は単価が安いから、荷台を満載にして2～3回転しないとトラック業者として利益が出ない。
- ⇒ 単価の安い家庭紙を少量多頻度・低積載率にて輸送していることが多い。

【課題解決の方向性】

- 例えば、近年増えているトイレットペーパーの倍巻き製品（既存のロール径を変えずにロール長を倍にした製品）を普及させることで、トラック事業者の納品の頻度や積載率等の改善や運送収入の増加といったメリットが出るのではないかと。
 - 下図のとおり、サプライチェーン全体にもメリットが及ぶのではないかと。
- ※トイレットペーパーは家庭紙全体の60%の物量を占める。



【今年度の実施事項：コンパクト化製品による物流改善の効果検証】

- 倍巻き製品の物流・販売面でのメリットを明らかにするため、トラック事業者の納品頻度や積載率、メーカー等の輸送コスト、小売業者の販売効率など、サプライチェーン各所においてどのような効果が表れるかを実証的に調査する。

論点4:納品環境の改善

【現状・課題】

- 狭隘な立地にある小売店舗では、適当な荷卸し場所がないことが多い。
- 上記に加え、駐車禁止規制との関係から、適当な場所にトラックの駐車場所が確保できないことがある。

【課題解決の方向性】

- 荷卸し場所がない小売店舗に対しては、例えば、カゴ車の利用や商店街等での共同配送ポイントの設置等による納品作業の効率化を図るべきではないか。
- 駐車禁止規制については、「自動車運送事業の働き方改革・政府行動計画」において、警察庁は「貨物集配中の車両に係る駐車規制の見直しの推進について」（平成30年2月20日付け警察庁内規発第3号）に基づき、トラック事業者の団体等からの要望が提出されている場所を中心に駐車規制の見直しを検討することとしている。
- 上記の見直しは、迅速な見直しが可能なものについては可能な限り早期に見直しを行うこととし、2020年度末までに見直しが完了するよう、計画的かつ集中的に実施することとしている。

【今年度の実施事項：納品作業の効率化、駐車禁止規制の見直し 等】

- 狭隘な立地にある小売店舗に納品する際に、カゴ車の活用や商店街等での共同配送ポイントの設置等の効率化の工夫を行っている例をヒアリング等により調査する。
- 警察庁における駐車禁止規制の見直し状況や、都道府県トラック協会の要望状況等を把握・整理する。